

## 浪江町中心市街地再生計画検討委員会（第1回）議事要旨

日時：平成28年9月26日（月）10：30～12：15

場所：浪江町社会福祉協議会会議室

出席者：【検討委員】

間野博委員長      佐藤秀三副委員長      窪田亜矢委員  
新谷保基委員      草刈恒彦委員      朝田英洋委員  
佐藤淳委員

【浪江町】

馬場有町長      [事務局] まちづくり整備課  
清水喜代志顧問      金山信一課長補佐      青田洋平係長

委員会の開会に先立ち、町長から委嘱状の交付を行った。

阿部高浩委員は所用により欠席。

#### 1. 開会

事務局の進行にて開会。

#### 2. 町長 あいさつ

馬場町長より次の趣旨の挨拶があった。

- ・東日本大震災から5年半、今年度を復旧実現の総仕上げの年と位置づけて、実現に向けて取り組んでいる。
- ・9月1日から今日まで特例宿泊を実施している。
- ・仮設診療所の建設工事も進んでおり、来年3月からは開院できる。
- ・幾世橋地区に住宅団地と学校の整備などを行う一方、浪江産の米販売、漁業再開に向けた事業検討も進んでいる。
- ・中心市街地については、震災前より商業面などの活性化対策が課題だった。常磐線の開通、道の駅の推進などの動きを見極めて中心市街地再生の方向性を定めるべく計画の策定を進めたい。
- ・委員の皆様はそれぞれの分野で経験と実績が豊富な方なので、様々な角度から検討いただき、浪江町百年の大計になるような提案をいただきたい。

#### 3. 検討委員会の設置目的等

事務局から配布資料により説明を行った。

- ・中心市街地再生の方向性を検討するため、委員会組織を立ち上げた。

#### 4. 自己紹介

各委員から自己紹介を行った。

#### 5. 委員長及び副委員長の互選

委員の互選により、委員長に間野博委員、副委員長に佐藤秀三委員が選出された。

- ・間野委員長、佐藤副委員長が就任の挨拶を行った。

【以降の進行は間野委員長。※馬場町長退席】

## 6. 資料説明

(1) 中心市街地及びその周辺地区における復旧・復興の現状について  
事務局から配布資料により説明を行った。

(2) 事業の推進体制及びスケジュールについて  
事務局から配布資料により説明を行い、質疑応答を行った。

- ・窪田委員：第1回職員検討会について報告。

どのような中心市街地を目指すかを議論しつつ、そのために必要な事業も議論した。まだ第1回ではまとまっていないので、第2回の職員検討会でもう少し深めたものをこちらに戻すという形を取りたい。

- ・間野委員長：職員検討会が先にあって、そこで出たものを受けてこの委員会に出すという形をとるのか。
- ・窪田委員：こちらの議論をまた職員検討会に戻すということになる。
- ・質問：分科会の位置づけがわからない。
- ・事務局：基本的に分科会のコアメンバーとして検討委員に入ってもらって、必要に応じて町担当が参加するイメージ。
- ・間野委員長：分科会についてはこの委員会の議事の進み具合の中で考える。今の段階でははっきりしたことは言えない。
- ・間野委員長：住民懇談会を予定しているが、これは今の体制の中に出ていない。どのような目的で、どのようにスケジュールに関わってくるのか。
- ・事務局：次回の検討委員会の前に町民の方々からも中心市街地に対する思いや意見を聞き、その上で次回の検討委員会に報告する。
- ・間野委員長：全町民を対象にしているのか。
- ・事務局：全町民というよりも、震災前に中心市街地にお住まいだった方々。
- ・間野委員長：地元の住民は現在、様々な場所に避難しているので4箇所で開催するということか。
- ・事務局：避難者の多い4箇所での開催にした。
- ・間野委員長：この委員会の各回の議題というか、テーマがはっきりしていない。
- ・事務局：中心市街地の中で今使用していない施設の活用方法なども議論していただきたい。
- ・間野委員長：計画をつくっていく上で必要な情報、例えば地権者の意向調査のようなことを「やる、やらない」ということも含めてするならどの段階なのか、その結果がいつの委員会に反映されるのか。
- ・事務局：個人情報もあり、全地権者の情報を出すというのは庁内的に難しい。例えばエリアを絞り、事業実施区域の情報を提供する形であれば可能かもしれない。
- ・間野委員長：今年度そのあたりの情報が得られるのかどうか、今の段階では不明

ということか。

- ・事務局 : 今、住民意向調査を行っており、土地建物の意向調査項目もあるので、そこをどう扱うかというところはある。
- ・間野委員長 : その調査は全地域の住民が対象で地権者だけではない。しかし、発表出来るものは発表していただきたい。
- ・事務局 : 記名式で避難前の住所もあるので、ある程度の情報は把握出来る。
- ・間野委員長 : 中心市街地の検討対象区域に関しては、特に国道6号線の東側の要素を入れながら計画策定に当たりたい。

## 7. 意見交換

間野委員長の進行により、各委員が一人ずつ意見を述べた。

- ・佐藤副委員長 : 商店街を元通りにするのは難しいが、商店街を再生しないと町が成り立たないので、中心市街地の環境づくりが大切。  
出来るだけ中心市街地に人が集まるような場所にしたいと思う。
- ・新谷委員 : 歴史的に浪江というのは、明治以前は幾世橋がメインで、明治以降、常磐線の延伸と共に権現堂地区が栄えた。  
今の114号線沿いに集落があったが、西風が吹くと大火になって、何度かそのような目に遭ったために、90°直角に新町通りを造った。  
その時に町名を水に因んでサンズイの浪江に変えた。だから100年前に昔の人が新しく町を造ったという精神は今も根付いていると思う。  
ゼロからのスタートになるが、これからどのような町にしようかということが自ずと出てくれば、手段や方法は出てくると思う。  
それから昔、浪江神社は新町通りにあったので、また新町に戻して門前町として再生させるのも1つの方法かと思う。
- ・草刈委員 : 浪江神社は新町のふれあい広場の所にあったので、そこに神社を戻すのもひとつの考えと思う。  
まちづくりの検討範囲がずいぶん広いが、自分としてはそこまで広く再生できるとは考えにくい。
- ・朝田委員 : 私も宿泊して家の掃除に行ってきた。その時1人暮らしだと、例えば心筋梗塞などになったらどうするかと考えた。それからスーパーだが、コンビニでもいいと思ったが、夜の7時までは営業していないと困る。これらを考えると色々なことがあってきりが無いが、これを一つひとつ解決していくよう皆で考えをまとめていけたらと思う。  
懐かしい小学校や町並みなど、地元、故郷というのは守っていかなくては行けないと改めて思った。
- ・佐藤委員 : 中心市街地は町の顔であり、その顔が活性化しないと町全体も活性化しない。  
高齢者、障害者が安全で安心して歩けるような環境にしたい。

安心して住めない地域は若者も戻ってこない。若者で戻って来た方、やる気のある方がチャレンジする場であって欲しい。浪江町の中心市街地はチャレンジャーの聖地と言われるくらいやっていただきたい。一生懸命にやっている事例を示せば、今避難生活をされている方も早く戻って、皆と一緒にやっていきたいと思う。そのような姿勢で、この計画も計画だけではなく、まず1つやってみるといふことだと思ふ。

- ・ 窪田委員：百年の大計を目指す話と、今すぐある課題をどうやって解決していくかは同じ時間軸で考えなくてはいけないと思っている。これから膨大に空地ができると思ふので、この空地のうまい使い方をまずこの中心市街地再生計画の中で示していかなくてはいけない。それから、周囲とどのようにつながっていくか、国道6号線の向こう側、帰還困難区域の方々、町の外から来る人とのつながり、これも色々な戦略を考えなくてはいけない。歴史的に、どのようにこの浪江が形成されてきたのかは重要。先ほど話が出たように、歴史的に蓄積されたものに浪江の価値があるわけで、100年経った後に、この原発被災というものを我々がどのように乗り越えたのかということ風景の中に組み込む。つまり、この復興プロセスを中心市街地の風景の中に入れて、伝えていくことが重要。
- ・ 佐藤副委員長：帰還困難区域の方から町の文化財を中心市街地に集めたいという話があった。今、解体家屋になっているもので町の文化財もある。小学校の講堂などを利用して、1箇所集められないかという提案だった。薬師堂なども壊れそうで、そのようなものがたくさんある。これから何十年と戻れないのなら、保管場所の検討をお願いしたい。
- ・ 間野委員長：文化財の問題は非常に緊急の課題になっている。その辺も中心市街地の課題として取り上げるのはとても大切だと思ふ。

## 8. 次回の開催日程等について

- ・ 10月16日、福島市と二本松市において住民懇談会を実施予定。
- ・ 10月17日、第2回職員検討会を実施予定。
- ・ 10月28日、第2回検討委員会を10時より浪江町役場において実施予定。
- ・ 第3回検討委員会の候補日として12月7, 8, 9日の午後を予定。

以上

## 第1回浪江町中心市街地再生計画職員検討会

日時：平成28年9月8日（木）14：00～16：30

場所：浪江町役場本庁者 2階大会議室

### グループワーク要旨

#### ①「浪江の中心市街地像とは」

##### A グループ

- ・ショッピングセンターが、中心市街地に出来れば人が集まる。駅前であれば、便利。生活に必要なもの、生鮮食品が買える場所がなければ、来年3月に帰還するのは難しいのではないかと。役場周辺と駅前周辺に商業施設が必要。歩いて全てが揃う距離でないと不便。中心市街地で完結できる簡潔できる形態にする。
- ・買い物と別な物事が出来る、町の顔となる空間作りが必要。
- ・買い物と医療機関を結ぶ公共交通機関が必要。
- ・季節毎にイベント（十日市等）があったので、復活してもらいたい。そのためにも、商工会が、元気にならないと難しい。
- ・はだか祭り等の伝統文化の復活。新町通りで実施していたように、道路、公園等のイベント空間づくりが必要。
- ・震災前から駅前は、賑やかでなかったもので、新たな企業誘致が必要。
- ・飲み屋街を整備しないと町外から人が集まらない。除染作業員をターゲットにした場合の治安維持が必要。
- ・町民が集まるきれいな公園、噴水のある公園整備。駅と役場の中間に都市公園整備。公園内で、カラオケのできる形態を形成。
- ・駅周辺に浪江町の情報発信施設を建設。
- ・商業と居住環境が混在する形態をとる。
- ・駅前が元気になるには、行政だけでなく地元商店主を取り入れないと出来ないのではないか。作業員を取り入れて、人を集めないと商店主も動かない。

##### B グループ

- ・駅はおもてなしの玄関口、人と会える場所、飲食や習い事をする、同世代で集まれる場所であった。
- ・震災前はスーパーひたちの停車駅であり（約60分間隔）、周辺の自治体は停車していなかったため優越感を感じていた部分もあった。
- ・「駅前」といわれると北側のイメージであり、居酒屋や飲食店（なわのれん、大坊（うなぎ屋）など）が多かった。スポーツセンターのある南側は駅裏というイメージ。
- ・他市町村（大熊、双葉）から浪江に飲みに来る人もいたため、駅前には代行とタクシーが多く駐車していた。
- ・新町通りで毎年11月に開催していた十日市（露店、道路は通行止め、三日間）祭りはにぎわいがあり。GW頃に開催していた緑のフェスティバル（植木市）もにぎわいがあった。（新町通りの高野菓子店は人気があった※再開はしていない）。また、ふれあい広場がステージとなってイベントを開催していた。
- ・新町通りに買い物等で来るときは、ふれあい広場に駐車して買い物をしてきた。昔はバスがあったが廃線となった。
- ・今後も食べたり、飲んだり、集える場所があった方がよい。新町通りは元気であって

ほしい。

- ・まちにいくと自分が生まれ育った空間を感じることができ、そこに行けることの喜びはあった
- ・車社会となり新町通り沿いの小売店は経営が悪化したため、今後は駐車場の設置が必要と考えられる。
- ・大型店舗（サンプルザ、ヨークベニマル）の進出に伴い、中心市街地店舗の客足が遠のいた。
- ・毎年1月に開催されていた裸参り（浪江神社スタート）やコスモスマラソン大会も活気があった。
- ・中心市街地は、幾つかの用事が一気に済ませられる場所であり便利であったが、用事がないといかなかった。また、子供だけでは（小学2年生まで？）行ってはいけないと言われていた。
- ・中心市街地の公共施設でよく利用していたのは、サンシャイン浪江、体育館、第一体育館、ふれあいセンター。
- ・今後、駅前には方向性がみれるような雰囲気づくりが必要なのではないか。
- ・駅前の花は綺麗であったが、トイレが汚く入りにくかった、またシンボルがなかった

## ②「そのために必要なプロジェクトとは」

### A グループ

- ・解体が始まったので、駅周辺を町で買収し、イベントができる施設をつくる。テナントが入れる、図書館がある、展示会が行える施設整備。施設整備にあたっては、商店会の意向調査が重要。駅裏を結ぶ自由通路が必要。
- ・旧施設を活用した愛着のある施設が必要。
- ・鉄道利用者を増やす必要があるが、車社会であったため、見栄えのする駐車場整備が必要。
- ・新町通りの復興のためには、あぶくま信用金庫の再開は、明るい材料であり、別事業者の再開が起爆剤となる。町外の人でも、商店を開始する意向の人がいないか。町としての助成制度も必要なのではないか。商売を度外視したパイオニアの開拓。
- ・きれいな公衆トイレが、必要。
- ・どこの人が戻ってくるかわからないと計画も立てられない。
- ・6号周辺に商店ができはじめると、駅周辺が賑わいを取り戻せない。JRを利用した施設計画が必要。6号沿線に道の駅が、できるため、6号国道・道の駅・役場～浪江駅を結ぶ回遊性のある施設計画が必要。

### B グループ

- ・駅を人が集まる場所にしていくためには、駅ビル、景観意識、綺麗なシンボルなどの仕掛けを取り入れていくことが必要（花時計、芝があって寛げる公園、イルミネーション、綺麗なトイレ、ポケモンなど）※ポケモン生みの親、田尻智さんのお父さんが浪江町出身
- ・道の駅と中心市街地との連携という意味で、レンタサイクルを設けスタンプラリーなどのイベントを設けて回遊できる仕掛け（桜並木をコースに入れる）をつくる。そのためには、国道114号線の拡幅が必要となってくる。
- ・歩いて回れるという点では、ハードとソフトのしかけが必要。新町通りを車も含めて一方通行にするのもありなのでは？新町通り沿いの店舗の外観統一も考えられる。

- ・ 中心市街地の南北には川（請戸川、高瀬方）がありながら暮らしのなかで、あまり川を感じる機会はなかった（親水的空間があまりなかった）。そのため、道の駅と連携した親水的空間の整備も考えられる。車で行けるオートキャンプ場など、歩いて回れるような仕掛け、新町通りとのアクセス性も重要。
- ・ 踏切は狭隘で危険なイメージはあったが、電車の本数が60分に一本だったので、待たされるイメージはなかった。今後、スポーツセンターをフル活用していくためには橋上駅の検討も考えられる。スポーツセンター利用者を意識した仕掛けも必要（南側に行く途中で）
- ・ 中心市街地は一方通行はもともとなかったが、今後は住む人の安全も考え今後は、一方通行等の規制も必要と考えられる
- ・ もともと休憩できる場所がなかったので、レンタサイクルと連携させ道の駅から新町通りあたりに休憩スポットが必要・
- ・ チャレンジショップを検討するにあたり仕組みづくりが必要。

#### グループワークとりまとめ

##### ①「浪江の中心市街地像とは」

###### A グループ

- ・ 生活必需品が揃うショッピングができればいい
- ・ イベントの開催：十日市、はだか祭り→浪江町らしい愛着のあるまちづくり
- ・ 人が集まる場所の整備→飲食店、飲み屋街

###### B グループ

- ・ 以前浪江駅周辺には、飲食店街があり賑やかだった。
- ・ 新町通りは、複数の商店街があり、一挙に生活雑貨を購入することが出来た。  
→浪江駅前周辺を整備し、一店舗毎ではなく、複数の店舗を整備し、活性化させるべきである。

##### ②「そのために必要なプロジェクトとは」

###### A グループ

- ・ 浪江駅前に、町の顔となるもの
- ・ 道の駅（交流・情報発信拠点）は、浪江町の核となるので、中心市街地からの誘導施設の整備
- ・ JR が、開通するので、JR を利用して浪江町に来てもらえる計画
- ・ 新町通りの事業再開のパイオニアの誘導→商売が成り立つ町からの支援策
- ・ 公衆トイレの整備→汚いと人は、集まらない
- ・ 郊外店舗に対する対抗策

###### B グループ

- ・ 浪江駅前に、集まるためのシンボルづくり→花時計、ポケモン像、観光案内等
- ・ 人が集まるには、公衆トイレの整備が必要
- ・ 道の駅との連携（回遊性のあるまちづくり）→レンタサイクルの利用や途中の休憩施設の建設
- ・ スポーツセンターとの連携
- ・ 南北の川（請戸川・高瀬川）を利活用できる施設の建設
- ・ 住む人にとって住みやすい場のづくり方が必要
- ・ チャレンジショップの仕組みづくり

【総評】

萩原研究員

- ・ レンタサイクルの整備には、道路整備が不可欠
- ・ 浪江駅前、ソフト・ハード両面の整備が必要
- ・ 帰宅困難区域の人々の考えも計画に取り入れるべきではないか
- ・ 行政がメインで行う事業と官民一体となって行う事業の整理

窪田特任教授

- ・ 次回職員検討会には、具体的に議論できる材料を提出したい

## 第2回浪江町中心市街地再生計画職員検討会

日時：平成28年10月17日（月）13：30～15：40

場所：浪江町役場二本松事務所 2階会議室

### グループワーク要旨

具体的な提案 ①「どの部分が重要か、ストーリー化、一定の提案に導く議論」

②「課題の越え方、対応策など」

○人があまる場所

#### A グループ

- ・新町通りのふらっとなみえには、障害者の人が集まる空間を作っていた。震災後は、空き家を利用し、集まれる空間をブロック毎に配置する。ぐるりんこ浪江の再開。
- ・サンプラザは、高校生の良き悪きも高校生のたまり場であった。
- ・NPO 法人「Jin」代表の川村さんは、トルコキキョウ世界一にする取り組みやかき栽培などに取り組みされており、浪江再生にも前向きに考えている方であり、今後のまちづくりを進める上での、キーパーソンと考えられる。行政から引き込んでいくことが必要
- ・土いじりの出来る貸し出し農園。安心して作れる農園を実施する上では、モニタリングの強化と対応策が必要。
- ・沿岸部でパークゴルフを実施し、高齢者が多数参加していた。
- ・岩手のオチャッコ(家の園側でお茶を飲む)のような、隣同士での単位でコミュニティを形成（公民館を利用）
- ・高齢者は、歩いて行ける個人商店を利用し、大型スーパーを利用しない。買い物をしながら、コミュニケーションを図っていた。

#### B グループ

- ・高齢者が気軽に集まり話せる場所が必要。また、集まるには動機と手段が必要。
- ・浪江小学校の再生と文化財の保全が必要。
- ・シルバー人材センターの様な高齢者も働ける（生きがいを与える）場所が必要。
- ・健康・体力づくりの場として集まる場所が必要。
- ・小学校を高齢者が毎日通う老人学校等のアイデアを用いて利用してみてもどうか。
- ・駅前での案内やデマンド交通など、高齢者の仕事を考える。
- ・小学校のグラウンド等で市民農園等を考えてみるかどうか。
- ・地域スポーツセンターを、高齢者の健康・体力づくりの場所として活用する。

○賑わう場所

#### A グループ

- ・十日市(11月第3土曜日・公式発表10万人)。浪江小学校で、絵画コンクール併設。車で来るので駐車場整備が必要。
- ・酒場が賑わっていた。バス・タクシーが、必要。
- ・浪江神社をふれあい広場に移設し、十日市との融合もおもしろい。新町通りは、大火を考えて作られたと聞いている。

#### B グループ

- ・住民が戻ってくるための飲食店、飲み屋、生鮮食品が買える商業施設が必要。
- ・ふれあい広場に浪江神社があると、お祭りなどにも良い。

- ・新町通りや駅前の歩道が狭いので、歩きやすい歩道の整備。
- ・食店等が自ら出店できるしくみづくりが必要。
- ・なみえ焼きそばの店に再会してもらおう。
- ・駅周辺の飲み屋街は、八戸の屋台村のようにしたらどうか。
- ・生鮮食品が買える商業施設は、採算問題もあり誘致が難しいため、移動販売や、集配型の販売等から始める。
- ・新町通の歩道を拡幅するために、用地を買収するのではなく、地区計画や自主協定等で用地を開けてもらうなどの様々な方法がある。地元で話し合っ決めてもらう必要がある。
- ・浪江神社をふれあいセンターの場所に移転できれば、新町通の核となりお祭りも賑わうのでは。
- ・日時を限定したイベント的に飲食店等に出店してもらえばどうか

### ○暮らしやすい場所

#### A グループ

- ・介護施設が必要。
- ・いわき市（眼科医）では、病院・商店・役所を結ぶ有料デマンド交通を行っている。
- ・最低浪江駅までの医療バスが必要。南相馬市との連携も考える。

#### B グループ

- ・安心して暮らせるまちづくり。
- ・早期に帰町する人のために、まちなかの便利なところに、条件の良い住宅を用意することが重要。
- ・医療施設、老人介護施設の整備。
- ・民間の空きアパート等をみなし町営アパート等にして、戻ってくる人が利用できるようにする。

### ○つながる場所

#### A グループ

- ・元々あったもの（伝統文化）の復活。イベントを行って、行きやすい雰囲気づくり。
- ・みんなが戻れる雰囲気が必要。はじめに戻る人は、大変。
- ・浪江応援隊が、出来ると良い→JR が、発信してくれると良いが。（JR のトイレは、きれいにするが、キヨスクは、再開しない）
- ・空き地空き家情報の発信。
- ・高齢者同士が見守り合うシェアハウス。（空き家を利用）
- ・新町通りを午後3時以降歩行者空間にし、屋台営業。屋台が、利用できる水道と下水道の整備が必要。
- ・空き地を利用した新町通りと道の駅を結ぶ回遊性のある施設。
- ・浪江小学校を将来再開できるよう、交流施設・校庭を町民農園・体育館を 3.11 避難体験施設として利用。

#### B グループ

- ・浪江町のシンボル、目玉となる施設等が必要。
- ・駅前にダッシュ村のミニチュア版を造る。

## グループワークとりまとめ

### A グループ

- ・高齢者目線ではなく、若者がつながる場所・帰ってくる場所の結論が出ない・
- ・帰町する高齢者への支援。
- ・新町通りを午後3時以降歩行者天国とし、屋台を出店する。
- ・浪江小学校は、校長会で議論しているが、教育施設としての利活用は難しいため、農園・避難体験施設としての再利用。
- ・NPO法人「Jin」代表の川村さんや特別老人ホームで活躍している方を行政に取り組み。
- ・空き家を利用した、帰った人同士が支え合う高齢者のシェアハウスの建設。

### B グループ

#### ○エリアごとの利用方法は

- ・浪江小・・・高齢者の集まる場所、高齢者通う学校、その仕組みづくり。
- ・新町・・・商店を再開する方法。商店エリアとしての環境整備が必要。  
(権利を残して歩道セットバック・店先活用スペースの創出)  
(空き地の駐車場活用)
- ・駅前・・・飲み屋街、人口が集まれば成り立つと考えられる。  
人の降りる駅としてのシンボル (ダッシュ村レプリカ等)
- ・新町・・・店舗の再建は難しい。住宅は。中心市街地に集まり住む配置の工夫。
- ・その他・・・交流拠点建設までの間、浪江小・ふれあいセンターを健康づくりの場として利用する。
- ・帰ってきた人が安心して暮らせる場、商業の環境は両輪として必要。  
(商業・住宅、形態を変えながら成長するまちづくり)

### 【総評】

#### 窪田特任教授

- ・本日のアイデアを図面におとし展開
- ・ただし具体的に詰めていくことは必要。今後プロジェクト化に向けてストーリーを考えていただければありがたい。
- ・次回11月までに、具体展開を検討いただきたい。



## 第1回浪江町町民座談会

日時：平成28年10月16日（日）10：00～11：30

場所：福島市 「あつまっぺ交流館」

参加者：16名

### グループごとの主な意見（概要）

#### A グループ

- ・十日市などの伝統行事の復活。
- ・まずは線量の低下、子供が帰れるような環境づくりが求められる。
- ・町の財政状況が重要。
- ・請戸川の両岸に桜を植栽し、水量を調整しカヌーができる環境にする。

#### 中心市街地を再生するために必要なことは

- ・新町はおいしいもの、みんなが集まるための復興対策が必要。交通、サービス、モニタリングが必要。帰ってくれば良いものがあるこういう情報を発信すべき。
- ・周辺自治体との連携が重要。

#### B グループ

- ・帰還者には住みやすい、戻れない人には誇れる環境づくりが重要。
- ・帰還者には150%の支援。
- ・戻るためには居住する場所が必要。空き家の活用、新しい人の受け入れ場所を作る。
- ・高齢者の帰還のためには、住やすさの拡充（便利、家賃が安いなど）
- ・子供の帰還のため、モニタリング、除染など安全エリアの確保が必要。
- ・誇れる町のためには祭りの復活、文化財保存など。
- ・町中では高齢者の体力づくりの場が必要。また、スーパー銭湯等のコミュニティ活性化の場所、シルバー人材の活用。

#### C グループ

##### ○良かったところ

- ・伝統文化・十日市の復活。原発関係者がお金を落としていたため活気があった。

##### ○これからの中心市街地について

- ・人の流れを作る。人を集める空間づくり。17.8%帰還では限界。除染事業者を含む新しいまちづくり。そのためには食事・宿泊が重要。
- ・だれかが先陣を切って帰還：病院、商店、となり組を誘発していく。補助金制度を手厚くすべき。被災地リスクをふまえた補助が必要。
- ・踏切拡幅に伴う、浪江神社の移転、中心市街地に学校施設を存続。

#### D グループ

- ・中心市街地、資料にあるとおり

##### ○これからの中心市街地について

- ・ハード面整備のチャンス。もとに戻すのではなく、もっと良い町にすべき。（道路・水路）は抜本的に見直すべき
- ・駅周辺：ホテル・温泉が有効。アーケード、大型店舗、高齢者健康維持のための施設・娯楽の場、大きな公園。

##### ○再生に向けての行動

- ・定年後に戻ってきたい。また、土地の売買の橋渡しを行ってほしい。
- ・商売は戻ってくる人を応援する環境が重要。買い物する人の優遇なども有効。
- ・町全体の見直しのためには区画整理が有効。

## 第1回浪江町町民座談会

日時：平成28年10月16日（日）14：00～15：30

場所：二本松市 「浪江町役場二本松事務所」

参加者：8名

グループごとの主な意見（概要）

### A グループ

○今何をやるべきか

- ・除染・解体が終わった空き地の荒廃がある。草刈り等をしてもらいたい。空き地・対策として帰還者の募集を行い、早期に住宅整備を進めるべき
- ・高齢者が安心して帰れる環境づくりが重要（緊急システム等）。1人で住むのが不安。
- ・医療・老人介護施設が必要
- ・人か店かの議論もあるが、商業再生の推進、新住民の受け入れ態勢づくりも重要。

### B グループ

○まちづくりの考え方

- ・一気に進めることもあるが、帰ってくる人を中心とした対応を優先すべき。
- ・ネガティブ要素もひとつひとつ解決していく必要がある。
- ・人口は重要。廃炉作業員等との共存も重要であるが、帰還できない人の実情を改めて確認したうえで検討していく必要あり。

○何が必要か

- ・十日市、良いものしか売らないプライド重要
- ・医療機関の内容。内科外科以外に整形外科、歯医者が必要。
- ・浪江にいち早く帰ってくる人が集まれる空間をまず整える
- ・公営住宅でのペット飼育

○再生に向けた取り組み

- ・生きる糧の提供。コミュニティ・集会所での取り組み。
- ・若者の帰還条件の整備に向けた努力。戻りたい高齢者がいても、同居する若者が戻らないと戻りたくても戻れない。
- ・一から見直して行く必要もあり。